

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F 月山)

事業所番号	0670102128		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん 黄金		
所在地	山形市 黄金 81-1		
自己評価作成日	令和4年2月8日	開設年月日	平成 18年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、若年性認知症の方を1名受け入れている。今迄の高齢認知症とは違い対応の困難さを日々感じさせられているが、職員一丸となりそれらのBPSDを改善できるよう取り組んでいる。また地域との繋がりも少しづつだが溶け込んできているものと思われるがコロナ感染予防のため出来ない、引き続きの課題としたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和4年3月11日	評価結果決定日	令和 4年 3月 29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の田畑や果樹園が広がるのどかな環境の中で、利用者は窓越しに見える山並みを眺め、四季の移ろいを感じながら家庭的な環境と手厚い支援の下で穏やかに暮らしています。コロナ禍が依然として続く中で地域との繋がりを大切に、一人ひとりの有する能力に応じて自立した日常生活を送ることができるように、また運動機能を維持して安心して過ごせるように自由性を尊重し、趣味や嗜好に応じた活動と適切な支援によって利用者・家族等の信頼を得ている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に会社の理念とスローガンを唱和し、意識付けを行っている。	朝の申し送りと合わせて笑顔であいさつを交わすことや、目線を合わせて会話することなどの「接遇スローガン」を唱和し共有している。一人ひとりのニーズを真摯に受け止めて思いを尊重し、心を込めて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、地域の行事に参加している。新型コロナウイルスの為、地域行事への参加は控えている。	コミュニティセンターの地域づくりに参加したり、自治会長等から情報をもらって地域と繋がりを持つようにしているが新型コロナウイルス予防対策のため自粛せざるを得ない状況にある。終息後は地域交流や地域資源の活用など福祉の拠点として積極的に担っていくよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティセンターでの行事に参加し、施設の事を報告している。見学にも足を運んでいただき、介護の場を実際に見て頂いている。新型コロナウイルスの為、行事への参加は控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1度実施している。地区会長、民生委員、協力施設、地域包括に出席頂き、意見を頂戴している。また、入居者、ご家族様も可能な限り参加して頂き、意見を頂戴している。新型コロナウイルスの為、書面上での情報提供を行っている。	コロナ禍の中で運営推進会議を書面送付に代えて実施し、運営状況や活動状況の報告と意見書を同封して意見や要望を募り業務に活かしている。結果については玄関に掲示したり職員にも周知を図り、家族等から要望があれば開示して理解を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所からの会議や研修には、新型コロナウイルスの影響で開催が未定な事があり、随時インターネットを通じ公式ページで研修の予定を把握し、必要に応じ参加を行っている。	市では業務内容によって介護保険課や指導監査課・長寿支援課等に分かれており、連絡を密にして実情やケアサービスの取組みを伝え、情報を共有していくよう努めている。行政との協力関係を築いて問題解決に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、適時話し合いの場を設け、改めて見直し身体拘束が行われていないか検証を行っている。また、研修も行い、各職員がどのようなことが身体拘束に該当するか学習の場を設けている。物理的な事だけでなく、言葉や薬も身体拘束になることを理解し、声を掛け合う環境を作っている。	「身体拘束等の適正化の推進」に基づいて指針を整備し、定期的に委員会を開催して結果について職員に周知を図っている。職員は研修を重ねて身体拘束による弊害について理解し、利用者の安全を確保しながら抑圧感を与えないように注意して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の外部研修に参加、施設で伝達研修を行い防止に努めている。どのようなことが虐待になるのか理解し、虐待が起きない環境づくりを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	山形県認知症実践者研修等に職員が参加し、自立支援や制度等について学ぶ機会がある。またその研修では、自施設の研修では他職員を巻き込んで行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、疑問や不安がないように配慮している。利用開始し、改めて疑問に思うことがあれば随時対応を行うことも併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、来所されたご家族も気兼ねなく意見が出せるように配慮している。運営推進会議にもできる限り参加して頂き、意見を頂戴する場を設けている。	コロナ禍で面会も自粛せざるを得ない状況の中で、利用者・家族等に不安を与えないように電話でことばを繋いだり、安心して生活ができるように配慮している。ケアプランを送付する際にも意見を求め、問いかけには誠心誠意対応している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス等、職員が集まる場で意見を出す機会を設けている。また、意見や提案があればすぐに言えるような関係作りにも取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を整える努力している。会議等の話し合いの場でも意見を出せる雰囲気づくりに努め、1人1人の意見を大事にすることでやりがいや向上心が持てるよう配慮している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育員会より毎月研修を実施し、計画的に学習の場を設けている。また、外部から講師を招くことで、より専門性の高い知識を得る機会を作っている。現在、コロナ禍ではあるが、出来る限りオンラインの外部研修等にも参加している。	内部研修や外部研修を計画的に実施し、質の確保と向上に向けて取り組んでいる。介護技術研修や実践者研修・防火管理者講習など職域や経験・習熟度に合わせて人材の育成を図り、資格取得に向けて助成制度を設け、職員も目標を掲げて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形市グループホーム連絡会に参加し、研修等に可能な限り参加している。現在、新型コロナウイルスの為、交流の場への参加は控えている。	新任者研修や実践者研修に参加して情報交換を行ったり、山形地区グループホーム連絡協議会や他機関からの資料を参考にして業務に活かしている。屋内での活動が多くレクリエーション等の取り組みに力を入れて利用者に喜んでもらい、質向上に繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と話しをする場を設け、現状の確認や入居時に不安がないように配慮している。その際の情報をフェイスシート等を通じ情報共有を行い、安心して利用できる環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と話し合いを行い、不安や要望を聞き入れ安心して利用できる関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の話し合いでどのような支援が必要か意見を頂いている。また、実際に本人にも話を伺い、現状を把握し、どのようなサービスが必要になるか検討を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように常に入居者の意向を聞く姿勢を持つように研修を行っている。会議等の場で入居者の意向を聞く姿勢を持つように意思統一している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様にその月の様子のお便りを出している。体調不良や事故があればすぐにご家族に報告するようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの家具や私物があれば持参いただくようお願いしている。また、友人等の面会も随時受け入れ、関係が途切れないようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、良好な関係が築けるような席にしている。ゆっくり談話できるようにソファも用意し、コロナ感染予防をしながら、入居者同士座って談話している場面も見られている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、連絡や相談があれば随時対応を行っている。また、郵便物も稀に届くことがあり、同様に対応を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が思う事や暮らしへの希望を随時聞き取りを行える環境を整え、困難な方へは本人本位で物事を捉え、検討行っている。	利用者と気兼ねなく会話ができるように笑顔で対話し、毎日の暮らしの中で交わす何気ない言葉も大切に捉えて真摯な態度で接している。把握が困難な場合でも丁寧にアプローチして表情や変化を見ながら思いをくみ取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、馴染みの生活環境に近づけるよう配慮し、アセスメントの充実を図り、ご本人の状態把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定により健康状態を把握し、その方に合った生活を考え、どの範囲まで行えるのかを見極め現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、モニタリングを実施。各居室担当がまとめたものをカンファレンスで話し合い、ご本人の状態に合わせた介護計画と統一したケアの実践に向けて現状の課題を探り、ケアのあり方について検討行っている。	居室担当制をとって利用者より深く関わってもらい、生活の様子や健康状態を把握して身体の清潔保持と楽しく生きがいを持って生活できるように、意見を集約し検討している。目標とサービス内容を具体的に掲げ、必要な支援を盛り込んで利用者主体の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を介護記録に記入行っている。その中で気付いた事やケアを実践した後の結果について話し合う機会を設け、見直しを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域資源の活用として、行事への参加、外食と外出の企画行っている。現在、新型コロナウイルスの為、施設内でレクリエーションを通し、楽しみが持てるよう行事を検討し実践している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期受診については、新型コロナウイルスの影響があり、職員がご本人に代わり代理受診を行っている。往診については、2週間に1回往診を受けている。</p>	<p>定期訪問診療の3医療機関(内科)を利用者全員がかかりつけ医として受診しており、他科受診はコロナ禍のため特に変化がなければ職員が代理で薬を処方してもらい、結果は家族等と共有している。常勤の看護師や医療機関とは24時間オンコール体制で情報共有しながら安心な医療体制となっている。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常勤看護師を配置している。個々の利用者の異変を早期に察知し、適切な医療が受けられる様、随時報告を行っている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の入院時は、必要な物品を事前に準備しご家族への説明と病院関係者への情報の提供、定期的に連絡を取りながら、安心して治療が行うよう努めている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、終末期に向け、ご本人の状態の変化を把握し、必要に応じてご家族と話し合える環境を作り、その中で事業所内で行える事を十分に説明し、医療関係者と共に、チームとして今後の方針に向けて検討行っている。</p>	<p>利用者の状態変化により主治医から家族等に終末期の説明があり事業所の「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」に同意を得て看取りケアを開始している。看取りは日常生活の延長と捉えて職員は普段から研修を重ねて備え、医療機関・看護師とチームで取り組み、家族等から感謝の言葉をもらっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、救急対応のマニュアルに基づき、迅速かつ安全に対応出来るよう研修会を通して周知徹底を図り、職員間のスキルアップに努めている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、定期的防災訓練を実施し、避難経路の明確化と経路図を掲示すると共に、全職員が対処行えるよう技術を身につけ、地域との協力体制を築いている。	年2回、3月と10月に避難訓練を実施し、コロナ禍のため消防署の参加はないが、自治会長と民生委員の出席があり地域との協力体制に繋げている。実際やってみると計画通りに進まないこともあり、職員は訓練の重要性を改めて感じて反省点を今後活かしている。敷地内の備蓄倉庫や非常持ち出し品を整備して災害に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人に合った、人格を尊重しプライバシーへの配慮、言葉掛けの工夫を心掛け、個人の尊厳が守られるよう日々ケアのあり方について検討を行っている。	利用者の自己決定を尊重し、職員はタイミングをみて視線を合わせながら簡潔な話し方で提案して本人に選んでもらうなど声がけに留意している。接遇スローガン「あなたの笑顔は私の鏡です」に沿って職員が楽しまなければ利用者も楽しめないという目標を掲げて共に笑顔で過ごせるよう努めている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援として、普段の生活の中で会話を通し、ご本人の思いや趣向、どういった生活を送っていきたいのか意向に沿えるよう汲み取り、ケアに反映できるよう働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員目線でのケアの実践は行わず、利用者本位で物事を捉え、個人のペースに配慮し希望に添えるよう支援行っている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、フロアへ離床する際には、整容行い、更衣時にはその方に合った衣類の選択が行えるよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をすることに楽しみが持てるよう行事食を考え、手作りゼリーやお菓子の提供、普段の食事の中に食べたいものを取り入れ、献立の作成を行っている。	朝食のおかずのみ配食サービスを利用し、他の食事の献立・買い物・調理は職員が交替でしている。食前の口腔体操で誤嚥を予防し、器選びや盛り付けの彩りなど見た目からも食欲増進に繋げている。リクエストメニュー・行事食などを取り入れ、野外での芋煮会や手作り餃子パーティーは利用者の楽しみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者にあった食事形態を随時検討し、食事量と水分量を毎日チェック表へ記入。また、汁物にトロミ剤が必要な方へは職員で情報を共有し食事提供を行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実践している。口腔内の状態については、2週に1回訪問歯科診療、歯科衛生士による口腔ケアを希望者が利用している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時でのトイレの声掛けやおむつ類の確認、個人の排泄パターンに合わせて誘導を行っている。	自立度の高い方には本人の判断に任せているが、一人ひとりの排せつパターンを把握して様子や時間を見計らいながら誘導し、できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。日中と夜間帯の違いや入居してからの修正など利用者の実態に基づいた適切な方法を確認しながら対応している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無についてチェックし、必要に応じて主治医より処方されている内服薬の服用を行う。日々の取り組みとして、体操やレクリエーションを通し体を動かせる機会の提供を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴出来る環境作りと楽しみが持てるよう言葉掛けの工夫を行い、個々の希望やタイミングに合わせた支援を行っている。	希望があれば毎日でも可能であるが、現在は1日おきのペースで主に午前中に入浴している。熱め・ぬるめ・1番風呂などできる限り希望に沿えるようにしており、拒否する方には無理強いせず声がけを工夫しながら誘っている。職員は危険防止に努めながらゆっくり気持ち良く入浴してもらえよう支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠が確保できるよう、定期的に安全確認を行い、利用者の状態を把握し、生活習慣が崩れることが無いよう配慮している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日、日付の間違いないか、朝・昼・夕・寝前の内服薬が所定の場所に配薬になっているのかを確認を行っている。服用前には、呼称確認し誤薬が起きないように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を通して、趣味が生かせる環境を整え、個人の力に合わせた役割を依頼し、日々の生活に楽しみが持てるよう支援行っている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を汲み取った外出支援を行ってきたが、コロナ禍の為、出かける機会が減っている。その中でもコロナの発生状況をみながら、出来る限り外出する機会を設けるよう心がけている。	コロナ禍の影響で外出は少なくなっているが、状況を見ながら紅葉狩り・公園・神社などのドライブに出かけており、天気の良い日は外でのお茶会や芋煮会・花火大会など外気に触れる機会を作り気分転換を図っている。屋内でのレクリエーションに力を入れて職員手作りの多種多様なゲームを楽しんでいる。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様の意向を考慮しながら適宜に行っている。必要に応じて立替えを行ったり、ご家族へ協力を依頼している。買い物時には、ご本人へ確認を取りながら職員と一緒に支払いを行っている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望が聞かれた時やご家族や知人より電話があった際には、職員が取り次ぎ、交流が上手く図られるよう支援行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の整理整頓、掃除を行い、季節感を感じられる装飾の作成、温度・湿度の管理、照明の調整、不安を感じさせないよう配慮し居心地の良く過ごせるよう工夫行っている。	共用空間の壁面には利用者手作りの装飾品を飾って季節感を味わい、感染症予防対策として時間を決めて消毒や換気とうがい・手洗いを徹底して行っている。リビングは皆が集う場所で相性を考慮し食卓の席替えなどをしながら、体操・レクリエーション・行事・趣味活動・手伝いなどが日課になっている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者とは話を楽しめたり、共有スペースの中でも個人の空間が保てるよう席の配慮や趣味活動に取り組める居場所の工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内に個人の思いのあるタンスや日用品、使い慣れた物や衣類等をお持ち頂き、住み慣れた環境に近づけるよう努めている。</p>	<p>居室にはベッド・収納スペース・エアコンが備え付けてあり、持ち込む物や配置は自由で仏壇やお気に入りの写真を飾るなど自分好みの個室になるよう対応している。担当職員と整理整頓や衣服の入れ替えなども一緒にし、温度・湿度の環境整備に注意しながら安全に居心地良く過ごせるように支援している。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>不要なものは所定の場所に片付け、歩行の妨げにならないよう配慮し、視覚を通してどんな場所であるのかを分かりやすく装飾を施し、安全に過ごせるよう工夫を行っている。</p>			